

令和5年度 綾瀬市立 落合小学校 学校関係者評価報告書

<p>綾瀬市教育委員会の基本方針</p>	<p>(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども</p>
<p>学校教育目標</p>	<p>「心も体も健康な子どもを育成する」 礼儀正しく思いやりのある子(清) よく考え粘り強い子(静) 進んで行動できる子(動)</p>
<p>学校経営方針 (グランドデザイン)</p>	
<p>今年度の重点目標</p>	<p>自分のよさを知り、生き生きと輝ける子 ・学ぶことが楽しい 【わかった・できた・もっと知りたい・やってみよう】を通して自分の成長が感じられる ・人と関わるのが楽しい 仲間と共に学校生活を豊かで楽しいものにする</p>

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく考え、粘り強い子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	83%の児童が進んで学習に取り組んでいると答えています。学校生活の大部分を占める授業において、このように感じられることが、児童の自律的に学ぶ力の育成につながっていくと考えます。これからも、教員間で目指す児童像を共有し、いきいきと学ぶ姿の実現に向けて授業改善に取り組んでいきます。「振り返り」にも継続して取り組み、児童が自分自身の学びの過程や変容を自覚できる場面を大切にしていきます。
2 教育課程	児童は、運動会や委員会、係活動、たてわり活動に積極的に参加している。	9割の児童が、行事や学校での活動が楽しいと答えています。また、保護者も9割以上が、児童は行事や活動に積極的に取り組んでいると評価しています。今後も各行事・各活動を通して、児童一人一人がいきいきと活躍できるように心がけていきます。また、児童にとってより豊かな体験活動ができるように、地域の皆様にもご意見ご協力をいただき、取り組んでいきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「礼儀正しく思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。	90%近い児童や保護者が、児童は「あいさつをし、きまりを守って生活している」と答えています。児童自身が、地域の方や保護者から大切にされている存在であることを実感し、そのつながりを意識できるよう働きかけることで、より進んで挨拶ができる子、周囲の人への感謝の気持ちや思いやりをもって行動できる子に育てたいと考えています。今後も、学校・家庭・地域との連携を深めながら、自分からあいさつができる子、思いやりのある子を育てていきます。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	94%の児童が、「学校が楽しい」と答えています。児童が安心して学校生活を送るために、学級や学年での活動に加えて、異学年での交流の場を設けています。今年度の運動会の縦割り種目のように、児童が主体となって工夫が生まれていくように支援していきます。さらに縦や横のつながりが深まるようにしていきます。また、楽しいと感じていない児童については、その理由を明らかにし、寄り添って支援をしていくことを通して、全ての児童にとって「楽しい」と思える学校を目指していきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	86%の保護者が、いじめ問題に対しての学校の取り組みを認めています。これは、子ども達の間が深刻になる前に教職員や児童、または保護者が気づき、連携して対処しているからではないかと思われます。一方で、保護者の10%が「わからない」と回答しています。学校の取り組みとしては、見えにくい部分かもしれませんが、今後も学校だより等を通して、いじめ問題への取組や対応策について、積極的に発信したいと考えます。また、いじめの早期発見に努めるとともに、教育活動全体を通して、思いやりの心やいじめをしない・許さない規範意識を育てていきます。
6 保健管理	学校は、「進んで行動できる子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	80%以上の児童が「進んで規則正しい生活をしている」と答えています。今後も、心と体の健康に留意し、保健指導を行うとともに、保健便りで家庭と連携を図ることに努めていきます。また、引き続き「生活リズム大作戦」を実施し、「早寝・早起き・朝ごはん」の意識づけを行うとともに、規則正しい生活習慣が定まるように指導していきます。さらに、学校生活の中で時間を守ることが意識できるよう、指導を継続していきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	今後も引き続き、通学指導ボランティアの方々や校外委員会を中心としたPTAの方々や学校職員が連携し、安全な登下校ができるように努め、消防・防災計画の検証や危機管理体制の徹底に取り組んでいきます。さらに、児童の実態に応じた、より効果のある交通安全教室や避難訓練・不審者対応の訓練を実施し、児童の安全に関する意識を高めていきます。また、施設の点検整備を定期的に行うとともに、下校指導では、歩行の仕方や通学路の安全にも気を配り、児童が安心して生活できる、安全・安心な学校づくりに努めていきます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	来年度も学習支援者の協力を得ながら、全職員で情報を共有し、学校全体でどのように支援をしていくか検討をしていきます。また、教育相談コーディネーターを中心として、スクールカウンセラーや外部機関との連携を図ったり、市の相談員等に依頼してケース会議を開いたりしながら、支援を必要としている児童に対して、よりよい支援ができるように努めます。また、校内で研修会を開き、教職員が支援教育に関する正しい専門的な知識を持ち、理解を深められるようにしていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	来年度も学校教育目標をもとに、各グループが重点目標を定め、今年度の反省を生かして業務を改善し、学校運営に取り組んでいきます。全教職員が個々の特性を生かし、落合小学校の子どもたちのため、力を合わせていきます。また、4つのグループ間で日々連携を図り、経験の浅い教職員の人材育成に努めながら、学校教育目標の具現化に向け、全職員が一丸となって取り組んでいきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	児童の資質・能力を育成するために「どのように学べばよいか」という子どもの目線での教材研究・授業改善に臨み、教職員一人ひとりの授業力を高めていきたいと考えています。そのために、校内研究やミニ研修を通して、教職員同士の対話を一層大切にし、それぞれの持ち味を生かしながら、お互いに高め合える教職員集団を目指します。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	93%の保護者が、学校が子どものよさを大切にしている指導をしていると答えています。来年度も、児童と向き合い、よく話を聞き、児童理解に努めていきます。一方で、子どものよさが大切にされていないと感じている保護者もいることも真摯に受け止め、さらに個に応じた指導ができるように努めていきます。また、行事実施後の振り返りや学校評価を生かして、次年度の教育課程計画の作成をしていきます。家庭との連携を密にとり、相談しながら児童の指導にあたることも、より一層、児童一人ひとりが大切にされる学校づくりに努めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	96%の保護者が学校からの情報を得ていると答えています。来年度も学校便りや学年便り等の各種お便りを通して、保護者の方への情報発信を心がけていきます。また、電話連絡や学校配信システムを活用し、必要な情報を迅速にお伝えするようにします。行事等を通して、子どもたちの日ごとの頑張りが成果を保護者にお伝えできるようにします。個別面談や懇談会では、学校や家庭での子どもの様子を共有し、連携を図っていきます。学校運営協議会やボランティアの方とは、これまでのつながりを大切にしながら、児童の学習活動がより豊かになるよう、連携をしていきます。学校評価でいただいた保護者の皆様の声も、今年度の学校運営に生かしていきます。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今こそ不易流行を考え、時代にあった教育活動とは何か、どの時代であっても決して変わらない、変わってはいけないもの、大切にしていかなければならないものと考えなければならない。 ・教職員が課題にしている「挨拶」「言葉使い」に関しては、学校だけでなく家庭、地域が一丸となって取り組んでいくべきもの。 ・落合小学校には校内にプラザや学童が併設されている。そのため、学校が行っている防災訓練や不審者対応訓練などを共同で行ったり、マニュアル等の情報共有をしていきたい。そのことでより児童の安心、安全が確保される。 ・職員が足りていない状況に関わらず、児童がのびのびと活動し、さらに達成感を持たせている。学校の努力が伺える。 ・コロナ禍が明け通常の教育活動に戻っている。そのような中、職員が足りていない状況であるにも関わらず、昨年度と比べて概ねアンケート結果がよくなっていることは大変すばらしい。特に児童が学校を「楽しい」と感じている割合が増えているのには、先生方の努力が伺える。 		